令和2年度 中部地方ダム等管理フォローアップ委員会 議事要旨

1. 日 時:令和3年度1月26日(火)13:30~16:30
2. 場 所:AP 名古屋 会議室 B+C+D
3. 出席者:藤田委員長、奥野委員、中村委員、西條委員、駒田委員、粕谷委員、辻本委員、長谷川委員
4. 議 事:
 - (1)ダム等の定期報告
 - 1)長良川河口堰
 - 2)岩屋ダム
 - 3)丸山ダム
 - (2)令和元年度年次報告書(案)及び令和2年の出来事
 - (3)審議概要等の確認

(1) ダム等の定期報告について

1) 長良川河口堰 定期報告について

【総括】

これまでの調査結果の分析・評価をとりまとめた長良川河口堰の定期報告書（案）について、審議を行った。

その結果、平成 27 年以降のフォローアップ調査計画に基づく調査が的確に行われていること、治水・利水について適切な効果を発揮していること、環境への影響等についても、堰運用前後で環境に一定の変化はあったものの、近年、調査結果は概ね安定した推移を示していることから、長良川河口堰については適切に管理運用されていることを確認した。

なお、委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見等は、下記のとおり。

i) 治水

- なし

ii) 利水

- なし

iii) 塩害防止・地下水位の変動

- なし

iv) 水質・底質

- なし

v) 生物

- サツキマスの市場入荷数が減少している要因については、市場調査のみではなく、漁業者・入漁者の漁獲実態等も踏まえた整理が必要である。
- 調査精度の向上に向け、A I ・ U A V 等の最新技術の活用を検討すること。

vi) 今後の調査計画

- なし

vii) その他

- 引き続き各種データを確実に蓄積し、一般の理解を深めていくことが重要である。
- 高潮時の操作実績は貴重かつ重要な経験であり、今後、評価対象に加えることについて検討すること。

- 定期報告書については、了承する。

(1) ダム等の定期報告について

2) 岩屋ダム 定期報告について

【総括】

これまでの調査結果の分析・評価をとりまとめた岩屋ダムの定期報告書(案)について、審議を行った。

その結果、岩屋ダムは治水・利水について適切な効果を発揮していること、環境への影響等についても、各種環境指標の状況が概ね安定していることから、岩屋ダムについては適切に管理運用されていることを確認した。

なお、委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見等は、下記のとおり。

i) 防災操作

- 洪水データを蓄積するとともに下流河道の整備状況等を考慮し、適切なダム操作の在り方について検討を進めること。
- 事前放流の実施にあたっては、降雨予測精度を向上させて利水に影響を与えないようにすることが大切である。また、事前放流後に貯水位が回復しなかった場合には、水系全体でフォローしていく仕組みが必要と思われる。

ii) 利水補給

- なし

iii) 堆 砂

- なし

iv) 水 質

- なし

v) 生 物

- 自治体を実施した外来種調査報告では馬瀬地域にオオハンゴンソウが確認されている。岩屋ダムにおいても注視し、外来種を確認した場合の対応方法を記述しておくこと。
- コクチバスは、オオクチバスと異なり冷水・流水性であって、今後、生息状況を急激に拡大させて在来種を減らす恐れが強いため、注視するとともに生息域拡大防止について検討すること。
- 確認個体数等に著しい変化が認められる場合には、その原因を分析・評価し記載しておく必要がある。
- カワウは駆除の効果がみられる。駆除を止めるとまた集まってくるので、今後も注視し対応することが重要である。
- 調査精度の向上に向け、AI・UAV等の最新技術の活用を検討す

ること。

vi) 水源地域動態

● なし

vii) その他

● なし

○ 定期報告書については、了承する。委員からの意見等は、提案（発言）の趣旨を踏まえ定期報告書に反映させること。

(1) ダム等の定期報告について

3) 丸山ダム 定期報告について

【総括】

これまでの調査結果の分析・評価をとりまとめた丸山ダムの定期報告書(案)について、審議を行った。

その結果、丸山ダムは治水・利水について適切な効果を発揮していること、環境への影響等についても、各種環境指標の状況が概ね安定していることから、丸山ダムについては適切に管理運用されていることを確認した。

なお、委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見等は、下記のとおり。

i) 防災操作

- なし

ii) 利水補給

- なし

iii) 堆 砂

- P. 35 の図については、最新の堆砂データを用いること。

iv) 水 質

- なし

v) 生 物

- 調査精度の向上に向け、AI・UAV等の最新技術の活用を検討すること。
- 新丸山ダム建設による水位上昇が流入河川の生息環境に及ぼす影響について確認しておくこと。
- 引き続き、東海丘陵植生構成要素植物については注視していくこと。
- トウヨシノボリの減少についても、説明・考察において触れておくこと。

vi) 水源地域動態

- なし

vii) その他

- 次回の定期報告にむけ、ダム等管理F U手法について、ダム再生事業の環境影響評価をどのように扱うかなど検討していただきたい。

- 定期報告書については、了承する。委員からの意見等は、提案(発言)の趣旨を踏まえ定期報告書に反映させること。